

Press Release 2021.05.19

加藤翼 縄張りとう島 Tsubasa Kato: Turf and Perimeter

分断や対立を超えた協働作業や連帯による可能性をあらためて気づかせてくれる加藤翼 初の大型個展を開催



《The Lighthouses - 11.3 PROJECT》 2011 photo: Kei Miyajima © Tsubasa Kato / courtesy of MUJIN-TO Production

東京オペラシティアートギャラリーでは、2021年7月17日[土]より9月20日[月]まで、「加藤翼 縄張りとう島」を開催いたします。

加藤翼(1984生)は、複数の参加者による協働作業が生み出す行為を映像、写真などの作品として発表しつづけています。数多くのリサーチやプロジェクトをグローバルに展開し、高い評価と注目を集めている現代作家の一人です。そこに集まった人々が知恵を出し合い、ロープと人力だけで巨大な構造体を引き倒したり、引き起こす〈Pull and Raise〉シリーズは、加藤翼の代表作の一つです。3.11を逆にした11.3(文化の日)に行われた《The Lighthouses - 11.3 PROJECT》は、東日本大震災後の福島に集まった約500人の人々が、津波で壊された家々の瓦礫によって、灯台のイメージに組みあげられた構造体をロープで引き起こすもので、このプロジェクトの構想が契機になり、震災からの復興を目指す地区の祭事の開催へと発展しました。

加藤翼の作品は、自然災害、都市開発、環境破壊などで地域のコミュニティが解体の危機に瀕するなか、人々が自発的に参画し、一体となって何かを実践することの意義を提示します。新型コロナウイルス感染症のパンデミックという状況下において、また、国家や国民の二極化が世界的に危惧されるなか、加藤の作品は、分断や対立を超えた協働作業や連帯による可能性をあらためて気づかせてくれるでしょう。

また、作家にとって美術館での初個展となる本展は、新型コロナウイルスのパンデミックによって延期された東京オリンピック・パラリンピックの開催期間とも重なります。ワクチン接種や供給の問題など、コロナが露呈したさまざまな格差や分断のさなか、本来は国民の連帯や一体感を醸成するはずのオリンピックについても、その開催をめぐる賛否が分かれています。異なる意見や立場をどのように捉え、私たちは前に進むべきなのか。本展が、こうした問題解決のためのささやかなヒントになることを願っています。

本展覧会の概要と出品作品などを本リリースにてご紹介いたしますので、「加藤翼 縄張りとう島」を貴誌媒体上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【主な出品作品、および展示構成】

《The Lighthouses - 11.3 PROJECT》*トップ画像

加藤の制作のうえで大きな転機となった作品。東日本大震災後、加藤は福島県いわき市で避難所への生活物資の支給や炊き出し、瓦礫の撤去作業にボランティアとして参加するかたわら、家を失った家主たちから大量の木材の提供を受けました。3.11を逆にした11月3日の文化の日、加藤の呼びかけで500人もの人々が集まり、津波で壊された家々の瓦礫で作った灯台を模した巨大な構造物を、力を合わせて引き起こしました。これが契機となり、このプロジェクトは復興を目指す地域の祭事へと発展しました。



《Underground Orchestra》

アメリカ・ノースダコタ州にあるスー族のスタンディングロック居留地で撮影された作品で、プレーリードッグという体長30~40cmほどのリス科の小動物に焦点を当てています。石油パイプライン建設によって棲みかを追われ、巣穴から恐る恐る頭を出す動きが、穴の出口に仕掛けられた鈴の音に変換されます。パイプラインの建設賛成・反対という立場を超えて、人間の傲慢さやその犠牲になる弱者への眼差し、自然との共生の重要性が提示されています。

《Underground Orchestra》 2017

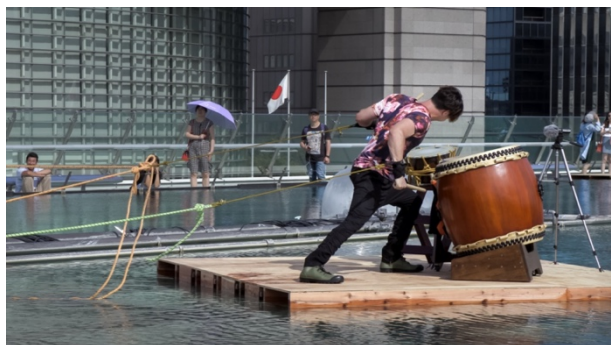
© Tsubasa Kato / courtesy of MUJIN-TO Production

《2679》

お互いを縛られた3人の演奏者(三味線、琴、太鼓)が君が代を演奏しています。自由に演奏しようとする、他のメンバーの妨げになり、演奏が成り立ちません。現代社会の分断、対立を想起させると同時に、不自由を克服しながら懸命に演奏を続ける彼らの姿からは、個人と共同体(社会)との関係の複雑さや自由というものの本質が浮かび上がってきます。なお、タイトルの数字は、1940年に開催された「紀元二六〇〇年式典」に由来します。

《2679》 2019 © Tsubasa Kato / courtesy of MUJIN-TO Production

*画像の使用には制限がございますのでご使用の際は広報までお問い合わせください。



《Superstring Secrets: Tokyo》

「秘密」を紙に書いて投函してもらう「Superstring Secrets」は進行中のプロジェクトです。加藤は、2020年2月から5月まで香港に滞在。参加予定の展覧会は新型コロナウイルスの影響で延期となり、帰国もままならない状況下で、極力人と接しないこのプロジェクトをスタートさせました。各々の秘密によってできてしまった「心理的な距離」に焦点を当て、その秘密を「結び、つなぎ合わせ、たばね、編み上げ」た1本のロープとして提示することで、秘密の歴史や人間関係の分断などの問題を可視化させています。

《Superstring Secrets: Tokyo》 2020

© Tsubasa Kato / courtesy of MUJIN-TO Production



このほか、《Listen to the Same Wall》(2015)、《Woodstock 2017》(2017)など、代表作をほぼ網羅する、2007年以降の映像作品26点および写真、模型などで構成し、加藤翼のこれまでの歩みと全貌をご紹介します。日本、アメリカ、メキシコ、マレーシア、香港など、世界各地で実践されてきたさまざまなプロジェクトは、ダイナミックなインスタレーションや臨場感あふれるサウンドの交錯によって、私たちの想像力を強く刺激して、時空を超えたスリリングな鑑賞体験をもたらしてくれることでしょう。

【加藤翼からのメッセージ】

「間主観」という言葉を知ったのはここ最近のことなのですが、僕の作品を吟味するにはもってこいだなという気がしています。それは『〈私〉と〈他我〉が、〈主観〉の内容的違いをもちながら、しかしそれぞれが唯一同一の世界(時間・空間)の内に共属している(はずだと〈私〉が確信する構造)』(竹田青嗣『現象学入門』NHK出版、1989年、p.131)と解説されています。

「私はここにいて、あなたもここにいて」ということを例えば私の隣にいる彼女に対しては確かめられますが(まさに〈主観〉の内容的違いも確かめられます)、隣人、隣国もしくは地球の裏側にいる誰かの存在について私たちはどれほど確信できているのでしょうか？

例えば津波の痕跡が残る被災地で、「分断」と騒がれるアメリカで、または静まりかえった香港の地下トンネルで、それぞれの土地で作品に協力してくれた人たちをその鏡として、私は同じ世界にいながらも全く違う風景を見ていると、ことを確かめてきました。一つの体験を別の角度から観測し表象することの限界線、いわば乱立する私たちの主観における事象の地平線をこの展覧会に設定したつもりです。「距離」という言葉が耳から離れない今、まさしく私たちの距離について考えるきっかけにして頂けたら幸いです。



photo: Kana Tarumi

加藤翼

1984年生まれ。2007年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業、2010年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。無人島プロダクションでの個展(2011~)のほか、「Scratching the Surface」ハンブルガー・バーンホフ現代美術館(ベルリン、2021)、「They Do Not Understand Each Other」大館當代美術館(香港、2020)、「BECOMING A COLLECTIVE BODY」イタリア国立21世紀美術館(ローマ、2020)、「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」愛知芸術文化センター(名古屋、2019)、「Uprising」ジュ・ド・ポーム国立美術館(パリ、2016)など、グループ展多数。

また、東京国立近代美術館、国立国際美術館、愛知県美術館、豊田市美術館、森美術館、ウルサン美術館などに作品が収蔵されている。

【開催概要】

展覧会名：加藤翼 縄張りと島 英語表記：Tsubasa Kato: Turf and Perimeter

会期：2021年7月17日[土]—9月20日[月]

会場：東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間：11:00-19:00 (入場は18:30まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、8月1日(日・全館休館日)

主催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

協賛：NTT都市開発株式会社

協力：無人島プロダクション/福徳産業株式会社/ARISTS' GUILD

入場料：一般1,200(1,000)円/大・高生800(600)円/中学生以下無料

お問い合わせ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

*同時開催「収蔵品展 071 寺田コレクションの日本画(タイトル未定)」、「project N 83 衣川明子」の入場料を含みます。

* [] 内は各種割引料金。ただし団体受付・団体割引の実施は当面の間休止いたします。障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

*新型コロナウイルス感染症対策およびご来館の際の注意事項は当館ウェブサイトをご確認ください。

最新の情報は随時当館ウェブサイト、SNS および特設サイトでお知らせします。

■本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【企画】堀元彰、瀧上華 【広報】市川靖子、吉田明子

Tel : 03-5353-0756 / Fax : 03-5353-0776 / Email : ag-press@toccf.com